

検 定 意 見 書

7 枚中 1 枚目

受理番号 26-108		学校 高等学校	教科 工業	種目 情報技術基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	まえがきii	6 - 7	プログラム作成	誤記である。	3-(2)
2	14	側注	特定機密の保護に関する法律	不正確である。 (特定機密)	3-(1)
3	38	表2.4	2進化10進数 (BCD) 3行 BCD	表記が不統一である。	3-(4)
4	48	10	保持すること使われている	脱字である。	3-(2)
5	53	図2.43	T-FF (a) T-FFの回路 (b) 図記号	不正確である。 (a)には、必要な入力信号が記述されていない。 (b)は素子の内外で変数が異なっている。	3-(1)
6	55	表2.7	基本的な論理演算 (c) 否定 (NOT) 演算 出力	誤りである。 (入力A=0の否定出力は0ではない。)	3-(1)
7	56	図2.46	(a) 真理値表 出力 $0 \cdot A$	誤りである。 ($0 \cdot A$)	3-(1)
8	61	中囲み	3.5 コンピュータネットワーク 88ページ1行目、ivページ目次 3.5 ネットワーク	表記が不統一である。	3-(4)
9	64	側注4	excution	誤記である。	3-(2)
10	68	図3.8	出力装置 (c) プロジェクタ (c) インクジェットプリンタ	不正確である。 (c)が重複している。	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

7 枚中 2 枚目

受理番号 26-108		学校 高等学校	教科 工業	種目 情報技術基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
11	76	11	罫線	表記の基準によっていない。 (初出なのにルビがない。)	3-(4)
12	76	図3.23	タイトルバー Word (以下76, 77, 78ページ Word, 79, 81ページ Excel, 83ページ PowerPoint)	特定の商品の宣伝になるおそれがある。	2-(7)
13	77	図3.25	図表の挿入 Office.com	特定の商品の宣伝になるおそれがある。	2-(7)
14	78	図3.26	プリンター HP Deskjet 3520	特定の商品の宣伝になるおそれがある。	2-(7)
15	79	5	数値型 †4 integer	誤りである。 (数値型は整数以外も表すことができる。)	3-(1)
16	89	図3.51	ユーザ認識サーバ 側注6 ユーザ認証サーバ	表記が不統一である。	3-(4)
17	91	側注6	コンピュータを識する	脱字である。	3-(2)
18	92	3 - 4	世界的規模にを広げ	誤記である。	3-(2)
19	100	23	面積s計算し,	脱字である。	3-(2)
20	102	図4.3	kin÷10の余 kin÷5の余 101ページ15行など イ kin÷10の余り ウ kin÷5の余り	表記が不統一である。	3-(4)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

7 枚中 3 枚目

受理番号 26-108		学校 高等学校	教科 工業	種目 情報技術基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
21	104	9	流れ図4.2は、	不正確である。 (4.2)	3-(1)
22	110	図4.11	(b)「yokin に入力」の流れ図記号	不正確である。 (他の入力手続きは長方形ではない。)	3-(1)
23	114	3	$250 \div 5 = 5$	誤りである。	3-(1)
24	114	図4.14	(a)処理ループ $i \leftarrow \textcircled{1}$, $\textcircled{2}$, $i \leftarrow \textcircled{3}$ (以下 115ページ流れ図4.9 ループ端 $\bigcirc, \triangle, \square$ 3か所)	不正確である。 (109ページ16行の表記)	3-(1)
25	121	側注1	プログラムをオブジェクトと呼ばれる	脱字である。	3-(2)
26	122	21	6,7行目の (以下 123ページ5行 6~9行目は、)	不正確である。 (122ページのプログラム例5.1)	3-(1)
27	126	12	$1.0/2.0$ または $1.0/2.0 \cdots 0.5$	生徒にとって理解し難い表現である。 (「または」で例示したのが同じ式)	3-(3)
28	127	下囲み	コラム マクロ プログラム例5.3の6行目の数式の部分 は	相互に矛盾している。 (6行目には数式はない。)	3-(1)
29	128	下囲み	プログラム例5.4 6行 <code>printf("斜辺の長さ= %f", ...);</code> 実行例5.4 斜辺の長さ = 5	相互に矛盾している。	3-(1)
30	131	上囲み	プログラム例5.6 10行 <code>printf("面積 %d\n", s);</code> 130ページ実行例5.6 面積は50	相互に矛盾している。	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

7 枚中 4 枚目

受理番号 26-108		学校 高等学校		教科 工業		種目 情報技術基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
31	133	下囲み	プログラム例5.7 7行 printf(...) (以下138ページ プログラム例5.9 7行)	誤りである。 (文法として誤りである。)	3-(1)				
32	136	側注1	もし、この優先順位が逆になると～、 kingakuがどんな値であっても、真と なってしまう。	誤りである。 (kingaku=0の場合、優先順位が逆でも真にはならない。)	3-(1)				
33	138	4	料金ryou 流れ図5.9 など ryoukin	表記が不統一である。	3-(4)				
34	139	図右上	プログラム例(問11) 5 float a, b, c, ... 8 scanf("%d %d %d", &a, &b, &c);	相互に矛盾している。	3-(1)				
35	140	下囲み	プログラム例5.10 7,8行 printf("言語を選んで下さい"); printf(" 1 日本語" %n);	不正確である。 (実行例5.10の表示と異なる。)	3-(1)				
36	140	下囲み	プログラム例5.10 8,9,10行 printf("..." %n); (以下149ページ プログラム例(問題1) 6,9,11行)	誤りである。 (文法として誤りである。)	3-(1)				
37	142	14	右のプログラム例 問12を	不正確である。 (右にはない。)	3-(1)				
38	143	図中	プログラム例5.12 11 sum=sum+kazu; ...② 同ページ13行 ②インクリメント演算子を使っている。	相互に矛盾している。	3-(1)				
39	143	図	流れ図5.12 判断記号 kazu≠1	誤りである。 (kazu≠1 ではない。)	3-(1)				
40	144	図下	プログラム例5.13 6 int nen; ...① 145ページ2行 ①預金額と利率を入れる変数は、実数 型で宣言する。	相互に矛盾している。	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

7 枚中 5 枚目

受理番号 26-108		学校 高等学校	教科 工業	種目 情報技術基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
41	144	下囲み	プログラム例5.13 14行 printf("...", nen, yokin); 流れ図5.13 nen, ganを出力	相互に矛盾している。	3-(1)
42	145	図下	プログラム例(問14(2)) (while文) yokin=1; ... while (...) { yokin = yokin * 2; sum = sum + yokin; (以下 for文版のプログラムも)	誤りである。 (1日目の預金が増算されない。)	3-(1)
43	146	14	平均点=78.98765 プログラム例5.14 10行 printf("平均 = ...", ...);	相互に矛盾している。	3-(1)
44	146	14	平均点=78.98765	誤りである。 (プログラム例5.14の実行結果と異なる。)	3-(1)
45	146	図下	プログラム例5.14 6 int i, sum = 0; ...① 147ページ2行 ①配列を宣言し、初期化を行っている。	相互に矛盾している。	3-(1)
46	147	6	変列と同じように	誤記である。	3-(2)
47	147	15	表5.10のようになる。	不正確である。 (指定する表は存在しない。)	3-(1)
48	148	図下	プログラム例(問15(2)) 20 printf(" %d %f\n", a[i], ...	誤りである。 (文法として誤りである。)	3-(1)
49	155	図右	流れ図6.2 探索ループ i←0; i<6; j←i+1	誤りである。 (iの値が更新されない。)	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

7 枚中 6 枚目

受理番号 26-108		学校 高等学校	教科 工業	種目 情報技術基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
50	157	中囲み	プログラム例6.3 9, 22行 printf("data [%d]=%d ", ...); 156ページ実行例6.3 [0]=78 [1]=52 ...	相互に矛盾している。	3-(1)
51	157	図6.4	data[0]の比較が終わったら data[5] 91	誤りである。 (値91が二つある。)	3-(1)
52	157	図右	流れ図6.3 閉じループ端 jループ iループ	誤りである。 (二重のループが構造化されていない。)	3-(1)
53	159	図下	プログラム例6.5 j=0; j<=3; ... i=1; i<=5; ...	誤りである。 (表6.2に示された配列の添字の範囲と合わない。)	3-(1)
54	160	図左	流れ図6.6 表示ループ i=j+1; i<6; i++ j, data[j]を出力	相互に矛盾している。 (プログラム例6.6 19~21行の処理と異なる。)	3-(1)
55	165	側注1	feedback control (以下 側注4 controler)	誤記である。	3-(2)
56	175	側注2	stepping moter	誤記である。	3-(2)
57	206	囲み左	問13(3) ④nenを出力 110ページ図4.11(c) ④を出力	相互に矛盾している。	3-(1)
58	206	囲み左上	問11「終了」の前の「sum÷nを出力」をループの中の「n←n+1」と「kazuに入力」の間に置く。	不正確である。 (「n←n+1」と「kazuに入力」の間にある「sum←③」の前後どちらに入れるか不明。またこれだけでは平均は出力されるが合計は出力されない。)	3-(1)
59	206	囲み左上	問12 図4.10の出力 110ページ13, 14行 図4.10(b)のループ端記号を用いた	表記が不統一である。	3-(4)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

7 枚中 7 枚目

受理番号 26-108		学校 高等学校	教科 工業	種目 情報技術基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
60	206	囲み左	問13 (4) ①～④ …	不正確である。 (111ページの図によると、埋めるべき穴は5個ある。)	3-(1)
61	207	囲み右上	問13 プログラム … n++; printf(…, (float)sum/(float)n); printf("数を入力(-1で終了)=>");	不正確である。 (143ページ16, 17行「そこまでの合計と平均」は出力されない。)	3-(1)
62	207	囲み右上	問14 (1) ① sei <= 100 145ページ5, 6行 3～200の整数値の中から	相互に矛盾している。	3-(1)
63	207	囲み右	章末問題 4①if ②else if 150ページ左上 プログラム例 (問題4)	相互に矛盾している。 (ifやelse ifだけではなく、条件式も必要。)	3-(1)
64	208	囲み左上	問1 for (j=1; j<5; j++) {	不正確である。 (153ページ実行例 (問1) の結果は得られない。)	3-(1)
65	208	囲み左	問2 for (i=1; i<j; i++) {	不正確である。 (153ページ実行例 (問2) の結果は得られない。)	3-(1)
66	208	囲み左下	問3 printf(" %2d", …	誤りである。 (文法として誤りである。)	3-(1)
67	209	囲み右	問3 図7.8 (b) 負論理 出力ポート LEDの状態 0 (Low) 点灯 1 (High) 消灯	誤りである。 (171ページ図7.8 (b) の回路の構成より)	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

2 枚中 1 枚目

受理番号 26-109		学校 高等学校		教科 工業		種目 情報技術基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	25	図1-27	コンピュータウイルス (2か所, 以下268ページ左上) 28ページ6行ほか コンピュータウイルス	表記が不統一である。	3-(4)				
2	29	17 - 19	たとえば, 列車制御システムが故障したときにシステムを停止させて列車を停止させると事故を起こす危険性は少ない。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「システムを停止させて列車を停止させる」だと列車制御システムが直ちに全停止するかのように読める。)	3-(3)				
3	73	図3-10(a)	1020 READ D(1) ... 1060 ... D(1) 1070 ... D(1)	誤りである。 (1ではない。)	3-(1)				
4	78	2 - 3	図3-13(c)のように	不正確である。 (図3-13に(c)は存在しない。)	3-(1)				
5	125	7	COLOR MIX(色指標) 青の強度, 赤の強度, 緑の強度	不正確である。 (引数の順序)	3-(1)				
6	143	12	scanf関数	誤記である。	3-(2)				
7	173	図中	住所録データ 長沢幸夫, 041-0804, 北海道函館市赤川町1-1-1 ... 174ページ	相互に矛盾している。	3-(1)				
			プログラム19行 while (scanf("%s %s %s", name, post, add) != EOF)						
8	197	6	not (A · B) = not (A) · not (B)	誤りである。 (等式は成り立たない。)	3-(1)				
9	202	図6-31	(a) 回路図	不正確である。 (入力の説明がない。)	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

3 枚中 1 枚目

受理番号 26-110		学校 高等学校	教科 工業	種目 情報技術基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	18	側注6	2次元コードの例	特定の営利企業の宣伝になるおそれがある。	2-(7)
2	26	17	コンピュータ	脱字である。	3-(2)
3	37	側注3	ソフトウェアキーボード 41ページ1行ほか ソフトウェア	表記が不統一である。	3-(4)
4	52	図25	11セル 総出荷数 (以下図26, 27, 28) 53ページ上表 出荷総数 53ページ9行 出荷個数	表記が不統一である。	3-(4)
5	56	図30	OSに依存にしない。	誤記である。	3-(2)
6	95	8	優先順位ついで	脱字である。	3-(2)
7	98	図右	データの流れ 円の面積 半径=? (2箇所)	不正確である。 (下のプログラムと入力を促すメッセージが異なる。)	3-(1)
8	101	表9	三角関数 (一般に, ...を度にできる。	不正確である。 (括弧の対応)	3-(1)
9	113	図右上	③の出力結果 全額=?... (4箇所)	誤記である。	3-(2)
10	121	囲み, 書式	DECLARE EXTERNAL FUNCTION 関数名 ~ END (以下123ページ DECLARE EXTERNAL SUB ~ END)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (DECLAREとENDは対で使うものと誤解する。)	3-(3)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

3 枚中 2 枚目

受理番号 26-110		学校 高等学校		教科 工業		種目 情報技術基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
11	125	19	型（数値が文字列か）	誤記である。	3-(2)				
12	128	図中右	問題2の流れ図	誤りである。 （「1を出力」からの矢印が戻る先は②の上ではない。）	3-(1)				
13	130	図上	問題7プログラム 130 IF MOD(D, 10) = 0	誤りである。 （MODの引数は(D, 10)ではない。）	3-(1)				
14	134	表1	ダブレット	誤記である。	3-(2)				
15	138	図10	割りきれなくなるまで計算を行う	誤りである。 （「割りきれなくなるまで」だと最初に余り3になった時点で割り算は終了する。）	3-(1)				
16	141	図15	10進数 $4-6=2$	誤りである。	3-(1)				
17	142	図16	AD変換 標本化と量子化の間の図	不正確である。 （数値の上下関係がおかしい。）	3-(1)				
18	144	13 - 15	さらに～色を割り当てることにより、 カラー画像をつくることができる。	生徒にとって理解し難い表現である。 （色を割り当てなくても、図20はすでにカラー画像である。）	3-(3)				
19	167	5 - 6	送受信両方の機能をもったIMAPとよばれる プロトコル	不正確である。 （IMAPに送信機能はない。）	3-(1)				
20	169	8	コンピュータウイルス 27ページ6行 コンピュータウイルス	表記が不統一である。	3-(4)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

3 枚中 3 枚目

受理番号 26-110		学校 高等学校	教科 工業	種目 情報技術基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
21	169	20	光ファイバーケーブル (以下右図) 163ページ8行 光ファイバ	表記が不統一である。	3-(4)
22	171	3	コンピュータであることが多い	誤記である。	3-(2)
23	178	図14	組込みシステムの構成例	不正確である。 (AD/DA変換器の位置)	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

8 枚中 1 枚目

受理番号 26-111		学校 高等学校	教科 工業	種目 電気基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	上巻 表見返 2		ページの下付近 数表示の例 の右側の表記 「100:100Ω」	不正確である。 (「100Ω」は不正確である。)	3-(1)
2	表見返 3		ページの上付近 定数 (4)真空の誘電率 の式 「 $\epsilon_0=1/\mu_0 c^2$ 」	不正確である。 (「 $\epsilon_0=1/\mu_0 c^2$ 」は不正確である。)	3-(1)
3	7	9 - 10	燃料電池ににより	誤記である。	3-(2)
4	33	図37	②の図の下の式 「R _{cg} 」	誤記である。	3-(2)
5	37	21 - 22	問25 内部抵抗100kΩ, 最大目盛10V の電圧計がある。200kΩの抵抗を直列 抵抗器として接続した。電圧計の最大 目盛を求めよ。	相互の関連が適切でない。 (問題文と解答の関連が適切でない。)	2-(11)
			295ページ左段22行「210V」		
6	60	4 - 6	たとえば, 抵抗値が1kΩで, 許容電流 10mAとすれば, 許容電力は, $P=I^2 R$ より0.1Wとなる。この結果, 1/8 (=0.125)Wの抵抗器を使用すればよい ことになる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (1つの抵抗について許容電力が2つあるように読める ため。)	3-(3)
7	63	15	「ペルチエ効果」の上のマーク 上巻裏見返4～6 電気のおゆみ① 下巻裏見返4～6 電気のおゆみ②	相互の関連が適切でない。 (「ペルチエ」が, 裏見返の「電気のおゆみ」で確 認できない。)	2-(11)
8	70	表3	クロロブレン	不正確である。 (『理科年表2014年版』と異なっている。)	3-(1)
9	76	12	定格電力 77ページ11行「許容電力」	表記が不統一である。	3-(4)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

8 枚中 2 枚目

受理番号 26-111		学校 高等学校	教科 工業	種目 電気基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
10	77	15	表6示すような	脱字である。	3-(2)
11	81	3 - 5	食塩の水溶液に電流を流すと、塩素が発生する。また、硫酸銅溶液中に電流を流すと、一方の電極に銅が析出する。電池の起電力は、このような作用を利用している。	生徒にとって理解し難い表現である。 (電気分解と起電力の発生は異なるため。)	3-(3)
12	81	8	電荷を帯びた原子をイオンという。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (単原子だけがイオンになるように誤解するおそれがある。)	3-(3)
13	86	3	銅イオンの原子価 101ページ26行「原子価」も同様である。	生徒にとって理解し難い表現である。 (84ページ11行「イオンの価数」、85ページ表1「イオンの価数」との関係について説明が不足しており、理解し難い。)	3-(3)
14	86	24 - 25	炭素棒にはH ⁺ が付着して正の電荷が現れるためである。	不正確である。 (「炭素棒にはH ⁺ が付着して正の電荷が現れる」は不正確である。)	3-(1)
15	89	12 - 13	明治20(1887)年、乾電池を発明した。 下巻裏見返5 右下付近 「1885[明治18] 屋井先蔵 屋井乾電池発明」	相互の関連が適切でない。 (発明した年が異なっている。)	2-(11)
16	92	表3	自動車用鉛蓄電池 の 放電率 「20時間放電率」 及び	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全ての自動車用鉛蓄電池の容量が20時間放電率で表されると誤解するおそれがある。)	3-(3)
			表の下の文 「自動車用鉛蓄電池の容量は、慣習として20時間放電率で表す。20時間放電率の公称電圧は12Vである。」		
17	93	表4	NiO (OH) (2か所)	生徒が誤解するおそれのある表である。 (2行での表記により、正極物質について誤解するおそれがある。)	3-(3)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

8 枚中 3 枚目

受理番号 26-111		学校 高等学校	教科 工業	種目 電気基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
18	97	図12	図の左側付近 電柱からパワーコンディショナまでの 接続部分	生徒が誤解するおそれのある図である。 (一般的な住宅用太陽光発電システムについて誤解 するおそれがある。)	3-(3)
19	101	17	σs 101ページ20行「 σs 」も同様である。	誤記である。	3-(2)
20	114	図9(a)	磁力線を表す矢印	不正確である。 (電流の向きに対して磁力線の向きが不正確である 。)	3-(1)
21	119	図17	電流の向きと磁界の向き	不正確である。 (電流の向きと磁界の向きの関係が不正確である。)	3-(1)
22	134	13 - 15	問7 図11で磁束密度 $B=0.5T$ 、電流 $I=4A$ 、コイルの面積 $0.06m^2$ 、巻数 $N=200$ 、磁界の向きに対してコイルの 面がなす角が 60° のとき、コイルに働 くトルク T を求めよ。	相互の関連が適切でない。 (問題文と解答の関連が適切でない。)	2-(11)
			296ページ左段25行「 $5 \times 10^{-7}N/m^2$ 」		
23	141	15 - 18	問3 磁路の長さ $l=1m$ 、鉄心の断面積 $A=25cm^2$ 、コイルの巻数 $N=2000$ 、磁束 $\Phi=1 \times 10^{-3}Wb$ 、磁気抵抗 $R_m=2 \times 10^6H^{-1}$ の磁気回路がある。 鉄心の透磁率 μ を求めよ。また、回路	相互の関連が適切でない。 (問題文と解答の関連が適切でない。)	2-(11)
			に流れる電流 I を求めよ。 296ページ右段2行「 10^{-10A} 」		
24	141	19	ウェーバ 裏見返6「ウェーバー」(2か所)	表記が不統一である。	3-(4)
25	152	12	磁界密度	誤記である。	3-(2)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

8 枚中 4 枚目

受理番号 26-111		学校 高等学校	教科 工業	種目 電気基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
26	153	3	保持力	表記が不統一である。	3-(4)
			154ページ4行「保持力」		
			154ページ10～11行「保持力」		
			154ページ16行「保持力」		
			302ページ右段1行「保持力」		
			153ページ図16(b)「保磁力」		
			154ページ図17「保磁力」(2か所)		
27	154	15 - 16	電流が流れていないときの保持力 H_c	生徒にとって理解し難い表現である。 (「電流が流れていないときの保持力」は理解し難い。)	3-(3)
28	154	図17	図の右下の囲みの文 「強磁性」	脱字である。	3-(2)
29	166	21	a 環状コイル 図12の環状コイルで 167ページ図12	相互の関連が適切でない。 (図12に示されたコイルは環状コイルではない。)	2-(11)
30	179	24	環状コイル 179ページ図24	相互の関連が適切でない。 (図24に示されたコイルは環状コイルではない。)	2-(11)
31	180	15	図25の環状コイル 180ページ図25	相互の関連が適切でない。 (図25に示されたコイルは環状コイルではない。)	2-(11)
32	182	8 - 11	磁界中に1Wbの正の磁極を置いたとき、この磁界に働く力の大きさと向きで表す。⇒p. 115 磁界の大きさ $F=mH$ [N] 磁界に働く力	本文115～116ページの記述と適切に関連付けて扱われていない。	2-(12)
			$H=6.33 \times 10^{-4} \times m/r^2$ [A/m]		

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

8 枚中 5 枚目

受理番号 26-111		学校 高等学校	教科 工業	種目 電気基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
33	183	12	N・m	誤記である。	3-(2)
34	187	24	(5) 何アンペアの電流を流せばよいか。	生徒にとって理解し難い表現である。 (二つのコイルに流れる電流について条件が示されていないため。)	3-(3)
35	231	4 - 5	図5に示すように、一つの変化をしてから、はじめの状態に戻るまでの時間 T[s] を、交流の周期 (period) とよぶ。	生徒にとって理解し難い表現である。 (図5の説明として理解し難い。)	3-(3)
36	232	7	Rudolph	誤記である。	3-(2)
37	244	16	始線01→	誤記である。 (「01」の上の「→」は誤記である。)	3-(2)
38	244	17 - 18	反時計回り 250ページ11行「反時計まわり」	表記が不統一である。	3-(4)
39	247	25 - 27	問3 図8において、 $A \cdot = (5, 2)$ 、 $B \cdot = (2, 5)$ のとき、 $A \cdot$ と $B \cdot$ の差のベクトル $D \cdot = A \cdot - B \cdot$ の座標を求めよ。また、ベクトル $D \cdot$ を極座標表示で表せ。	相互の関連が適切でない。 (問題文と解答の関連が適切でない。)	2-(11)
			298ページ左段27行「 $D \cdot = 3\sqrt{2} \angle \pi/4$ 」		
40	279	2	図19 (b)	誤記である。	3-(2)
41	裏見返 5		ページの右側付近の表記 「オーム 1789-1854」 18ページ1行「1787-1854」	相互の関連が適切でない。 (生まれた年が異なっている。)	2-(11)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

8 枚中 6 枚目

受理番号 26-111		学校 高等学校	教科 工業	種目 電気基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
			18ページ2～3行「1787年3月16日、現ドイツのエアランゲンで生まれる。」		
42	下巻 表見返 2		直動式指示電気計器の種類 の表 「文字記号 M S D R I」	生徒が誤解するおそれのある表である。 (旧JIS、特定メーカーの製品の呼びで使われるものであり、全ての直動式指示電気計器に表示される記号であるように誤解するおそれがある。)	3-(3)
43	11	10	$B \cdot = -6 + j 5$ 11ページ図2 B・の位置	相互の関連が適切でない。 (問題文と解答の関連が適切でない。)	2-(11)
44	16	10	$A \cdot = A(\cos \theta + j \sin \theta)$	誤記である。	3-(2)
45	61	図13 (c)	図の右上付近の表記 「I・」	61ページ14行「 $I_3 \cdot = V_0 \cdot / Z_0 \cdot + Z_3 \cdot$ 」と適切に関連付けて扱われていない。	2-(12)
46	71		ページの右下付近の表記 「三相交流の原理 1」 4ページ右段2行 「1節 三相交流の基礎」	表記が不統一である。	3-(4)
			72ページ1行 「1節 三相交流の基礎」		
47	107	図2	図(a) の表記 「h_a」, 「h_b」	誤記である。	3-(2)
48	117		中央付近 デジタルオシロスコープの写真	特定の商品の宣伝になるおそれがある。 (製造会社、商品が特定できるため。)	2-(7)
49	121	11 - 12	10V端子に接続したときは内側の目盛、 30V端子に接続したときは外側の目盛 121ページ8行「上段と下段に目盛が刻	表記が不統一である。 (「内側」、「外側」は、「下段」、「上段」と表記が不統一である。)	3-(4)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

8 枚中 7 枚目

受理番号 26-111		学校 高等学校		教科 工業		種目 電気基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
			まれたもの」 122ページ図3 「使用している端子によって、上段の目盛を読むのか、下段の目盛を読むの						
			かを確認する。」						
50	128	20	切り下げて偶数になるようにする 128ページ4行「切り捨てによって、」 128ページ17行「切り捨てる。」	表記が不統一である。	3-(4)				
51	128	26	(4) $81.4 \div 56.3$ 219ページ左段8行「1.44」	相互の関連が適切でない。 (問題文と解答の関連が適切でない。)	2-(11)				
52	135	4	円筒形の巻き枠	生徒にとって理解し難い表現である。 (図5に示された巻き枠は円筒形ではないため。)	3-(3)				
53	140	14	円筒形の固定鉄片①	生徒にとって理解し難い表現である。 (図14に示された固定鉄片①は円筒形ではないため。)	3-(3)				
54	142	7 - 8	固定コイルに電流を流し、可動コイルに比例した電流が流れると、電力に比例した振れ角が得られる	生徒にとって理解し難い表現である。 (電流計形計器の動作原理として理解し難い。)	3-(3)				
55	150	8 - 9	両コイルに電源電圧を加え、負荷電流を流す。	生徒にとって理解し難い表現である。 (電力量計の動作の説明として理解し難い。)	3-(3)				
56	151	8	回転/kW・h	表記の基準によっていない。 (単位記号の表記が、JIS Z 8000-1:2014 によっていない。)	3-(4)				
57	154 - 155	16 - 2	Q/Pを比例抵抗辺の倍率とよび、0.001, 0.01, 0.1, 1, 10, 100, 1000の倍率に設定してある。また、Sを加減抵抗辺とよび、	表記が不統一である。 (「比例抵抗辺」、「加減抵抗辺」は、「比例辺」、「測定辺」と表記が不統一である。)	3-(4)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

8 枚中 8 枚目

受理番号 26-111		学校 高等学校		教科 工業		種目 電気基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
			上巻39ページ11～12行 「図(b)のように比例辺とよばれる抵抗 $P[\Omega]$ と $Q[\Omega]$ (抵抗値は $1\Omega, 10\Omega, 100\Omega, 1k\Omega$), 測定辺とよばれる」						
58	155	図12(a)	回路計のイラストの表記「W」(4か所)	誤記である。	3-(2)				
59	183	7	$Z_{1\cdot} = 256 \angle -0.672 [\Omega]$ 183ページ9行 「 $I_{1\cdot} = V_{1\cdot} / Z_{1\cdot} = 100 / 255.5 \angle -0.672$ 」	表記が不統一である。	3-(4)				
60	214	3	温度[K] 119ページ脚注① 「熱力学温度[K]」	表記が不統一である。	3-(4)				
61	裏見返6	左段16	ブラウン管 162ページ11行「ブラウン管」など	表記が不統一である。	3-(4)				
62	裏見返6	右段25	烏潟右一	誤記である。	3-(2)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

3 枚中 1 枚目

受理番号 26-112		学校 高等学校		教科 工業		種目 電気基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	13	表1	$1\mu V=10^{-6}A$	誤記である。	3-(2)				
2	24	3	E ₃ =2V 24ページ図16 24ページ11行「 $2I_2+5I_3=4+5=9$ 」	相互の関連が適切でない。 (E ₃ の値が異なっている。)	2-(11)				
3	54	9 - 10	二つの磁極が置かれた空間の物質(磁性体)	生徒にとって理解し難い表現である。 (二つの磁極が置かれた空間の物質が磁性体であるとは限らないため。)	3-(3)				
4	58	26 - 28	強磁性体には、鉄・ニッケル・コバルト・マンガンなどがある。 56ページ表1 常磁性体の欄「マンガン」	相互に矛盾している。	3-(1)				
5	76	2 - 3	コイルが回転してもコイル上部(または下部)に流れる電流の向きは一方となる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (上部, 下部とはどの部分か理解し難い。)	3-(3)				
6	77	1 - 3	図9のように, 平行導体A-B間の距離をr[m]とし, 各導体の同じ向きに流れる電流をI _a , I _b [A]とする。	生徒にとって理解し難い表現である。 (図(b)ではI _a とI _b は同じ向きではないため。)	3-(3)				
7	91	9 - 14	送電側では, ACアダプタからの直流電流を送電側装置で適切な電圧・周波数の交流電流に変換して送電側コイルに流し, 送電側コイルに生じる磁束を変化させる。受電側では, 相互誘導によ	生徒にとって理解し難い表現である。 (電圧と電流の関係について理解し難い。)	3-(3)				
			って受電側コイルに生じた交流電流を受電側装置によって適切な電圧の直流電流に変換し, 機器の二次電池を充電する。						
8	91	18 - 19	日本では, WPCが策定した世界標準規格であるQi規格を採用し, この規格に基づいた製品が販売されている。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (我が国においてワイヤレス給電を利用した製品の全てがQi規格であるように誤解するおそれがある。)	3-(3)				
9	92	図17	図の左上付近の囲みの文 「0.2秒間に2A流す」	92ページ16行「0.2秒間に2Aの割合で変化させた」と適切に関連付けて扱われていない。	2-(12)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

3 枚中 2 枚目

受理番号 26-112		学校 高等学校	教科 工業	種目 電気基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
10	124	15	角度 α をラジアン β で表す	生徒にとって理解し難い表現である。 (β も角度であり、また、ラジアンは角度の単位であるため。)	3-(3)
11	129	14 - 15	電流を $I_1:I_2$ 、電力を $P_1:P_2$ とする と	生徒にとって理解し難い表現である。 (「 $I_1:I_2$ 」, 「 $P_1:P_2$ 」は理解し難い。)	3-(3)
12	131	側注②	記号にを用いるため	脱字である。	3-(2)
13	136	8 - 10	いい換えれば、 $a \angle \pi/2 = ja$ となるため、 次の式がなりたつ。 $a/1 \angle \pi/2 = a/j = -ja$	生徒にとって理解し難い表現である。 (下の式「 $a/1 \angle \pi/2 = a/j = -ja$ 」に上の式「 $a \angle \pi/2 = ja$ 」が使われていないため。)	3-(3)
14	157	図46	図の下付近の表記 「 V_L 」	誤記である。	3-(2)
15	172	23	(相電圧) 172ページ24行「(相電流)」	生徒にとって理解し難い表現である。 (「(相電圧)」, 「(相電流)」が何を意味しているのか理解し難い。)	3-(3)
16	178	図3(a)	(p. 191参照) 及び (p. 197参照)	誤記である。	3-(2)
17	179	16 - 17	個人誤差は、同一の指示を複数の測定によって測定値を平均するなどして、誤差を少なくする工夫が必要である。	生徒にとって理解し難い表現である。 (個人誤差を少なくする工夫について理解し難い。)	3-(3)
18	191	6	指針の振れから	生徒にとって理解し難い表現である。 (図5の絶縁抵抗計には指針はないため。)	3-(3)
19	193	12 - 13	図のように、電圧コイルと電流コイルを配置し、両コイルに負荷電圧を加えて負荷電流を流す。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「両コイルに負荷電圧を加えて負荷電流を流す」は理解し難い。)	3-(3)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

